

Compiere3.0J  
Windows インストールガイド

2008/4

株式会社アルマス

## 1 動作環境

このインストールガイドは、Windows 環境でのインストール専用です。  
推奨動作環境は次です。

WindowsXP 以上	
ディスク容量	5GB 以上（データベースを含む）
メモリ	512MB 以上（1GB 以上推奨）
Java	JDK 5.0 Update12 以上（JRE では動きません！）
データベース	Oracle XE(Oracle Database 10g Express Edition) 無料

## 2 Java インストール

### 2-1 インストール

PC に JDK 5.0 Update 12 以上がインストールされていない場合は、次の URL からダウンロードしてインストールしてください。

<http://java.sun.com/javase/ja/6/download.html>

### 2-2 環境変数の設定

JDK のインストール終了後、システム環境変数 JAVA\_HOME をインストールしたディレクトリに設定してください。

（例 JAVA\_HOME= C:¥Program Files¥Java¥jdk1.5.0\_14）

環境変数 path に「%JAVA\_HOME%¥bin;」を追加します。

## 3 Oracle XE インストール

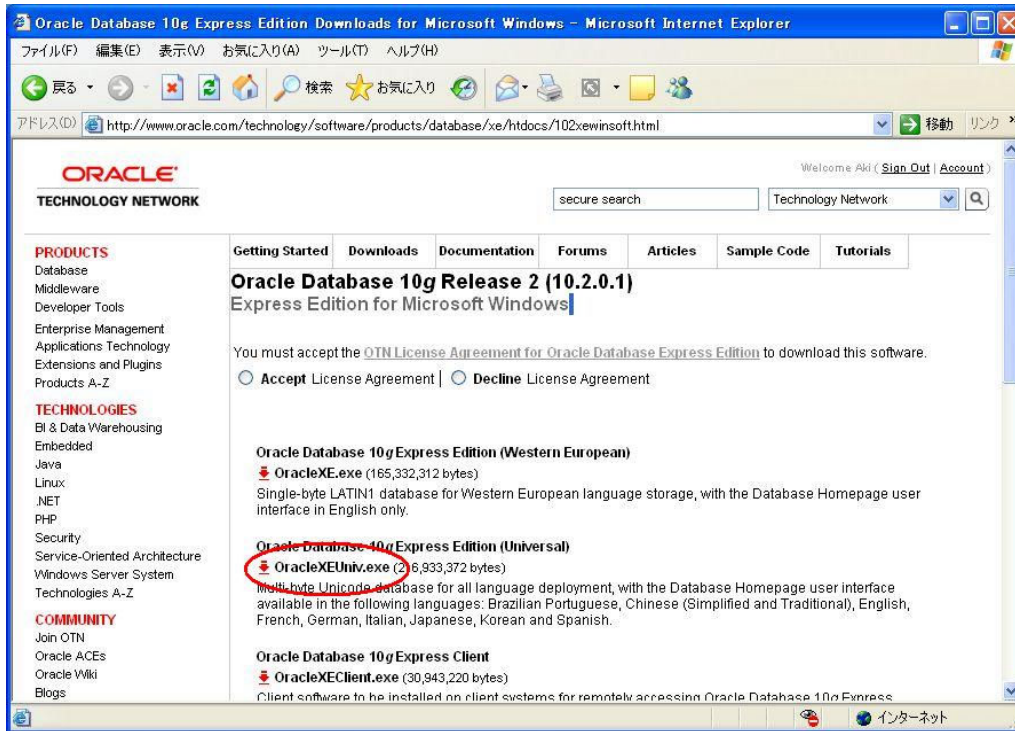
### 3-1 ダウンロード

Oracle XE(Oracle Database 10g Express Edition) を次の URL からダウンロードします。

<http://www.oracle.com/technology/software/products/database/xe/htdocs/102xewinsoft.html>

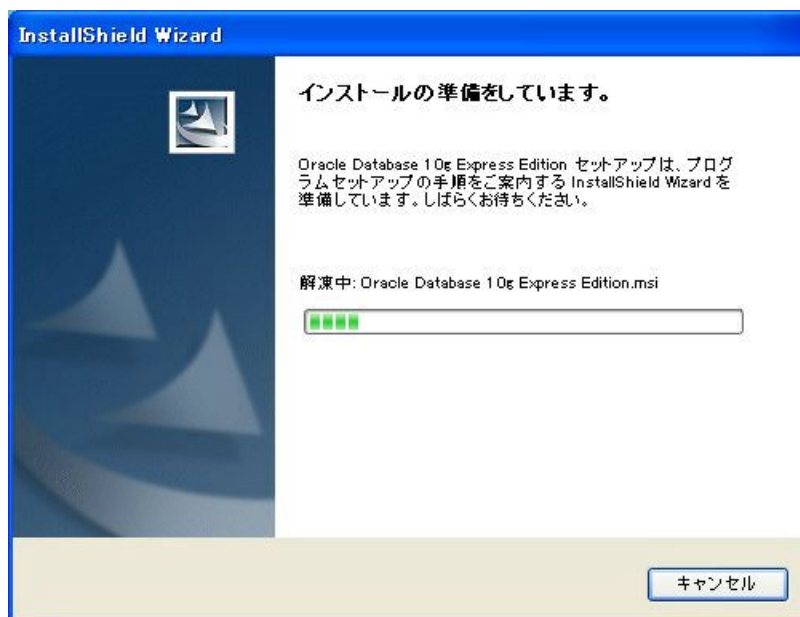
ダウンロードするのは、次のファイルです。

OracleXEUniv.exe (Oracle Database 10g Express Edition (Universal))



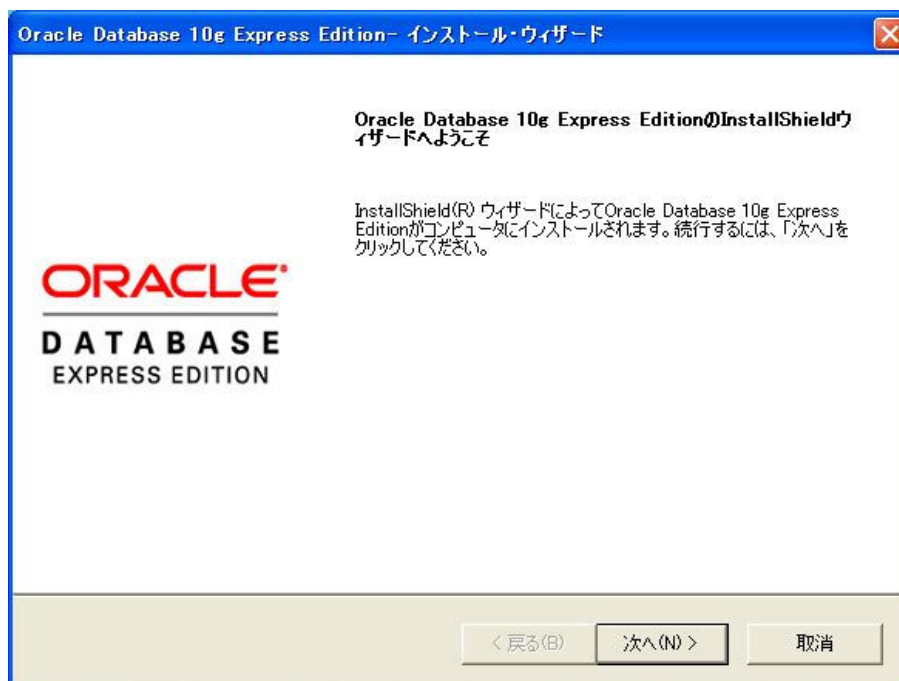
### 3-2 インストール

OracleXEUniv.exe を実行します。次のようなインストールの準備画面が表示されます。



## 2) インストール起動画面

インストール起動画面が表示されたら「次へ」をクリックします。



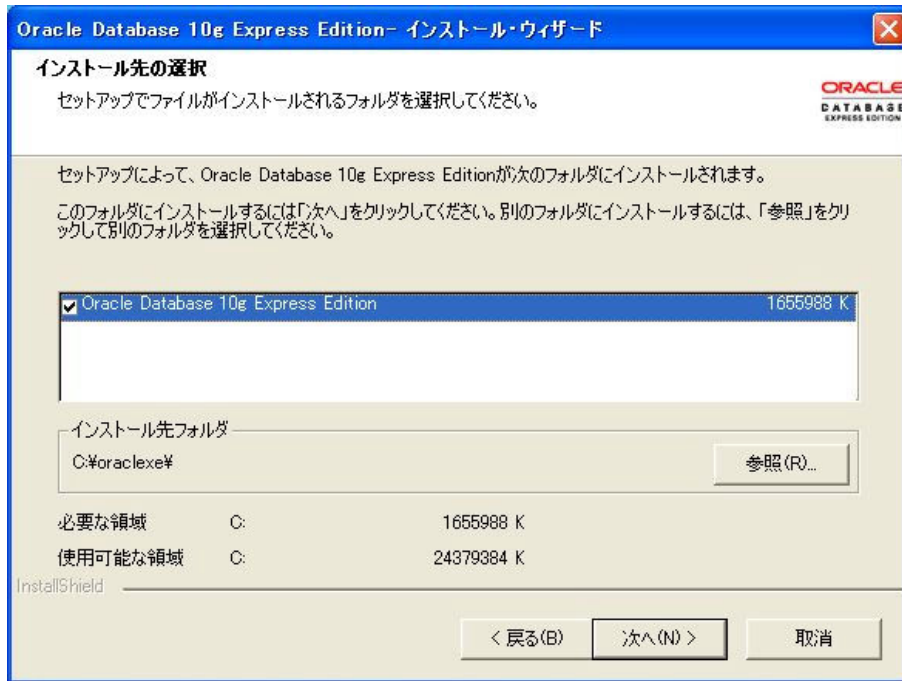
## 3) 使用許諾

使用許諾契約画面で「使用許諾条項に同意する」を選んで次に進みます。



#### 4) インストール先の選択

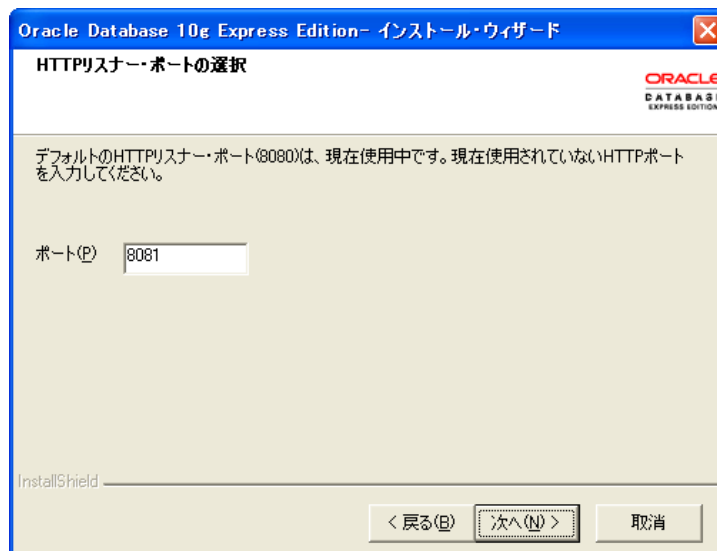
インストール先を設定します。



#### 5) HTTP リスナーポートの選択 (8080 使用中の場合)

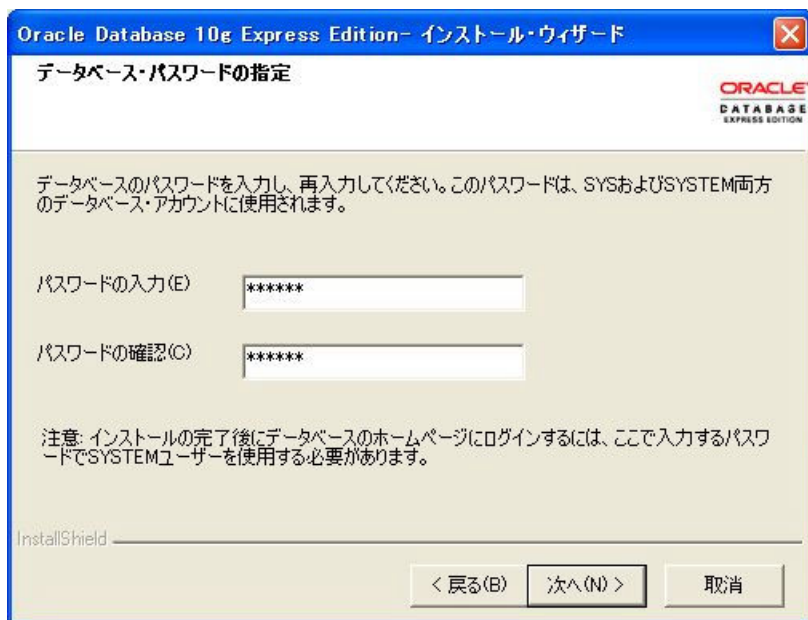
Oracle の Web 管理ツールはポート 8080 を使用しますが、8080 ポートが使われていた場合は以下の画面が表示されます。

任意のポート番号を指定してインストールして下さい。



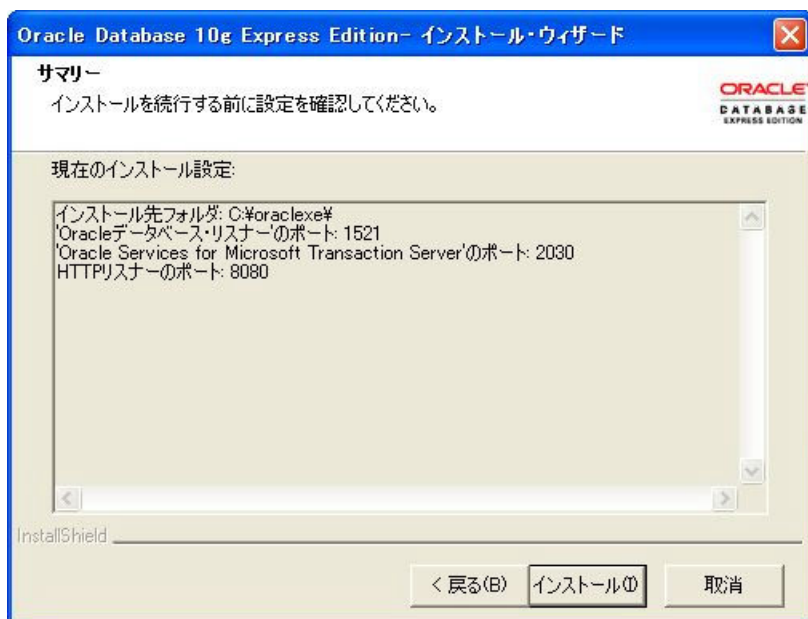
## 6) データベース・パスワードの指定

データベースのパスワードを設定します。このパスワードは、Compierre の設定画面の「システムパスワード」で入力しますので忘れないようにしてください。



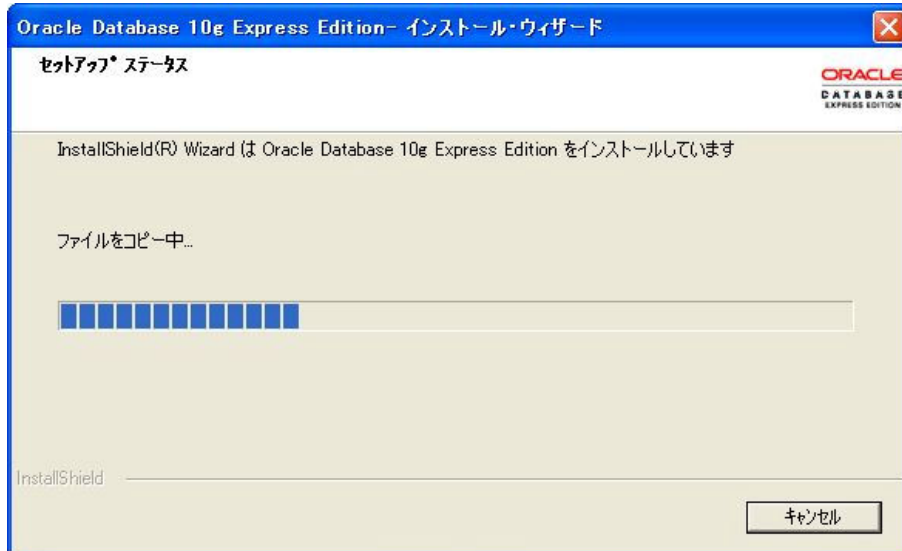
## 7) サマリー

パスワード設定後にサマリーが表示されます。



8) インストールの実行

サマリー表示後に次に進むとインストールが実行されます。



9) 終了

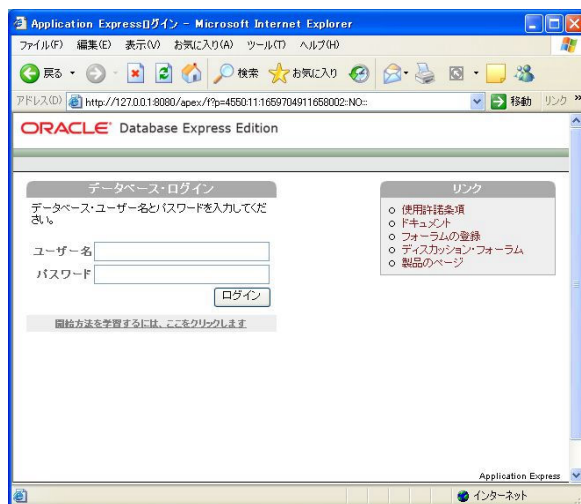
終了すると次が表示されます。



## 10) データベースのホームページ表示

終了画面でデータベースのホームページ表示をチェックしておく、ブラウザが起動して次のログイン画面が表示されます。

ユーザー名とパスワードを次のように入力します。

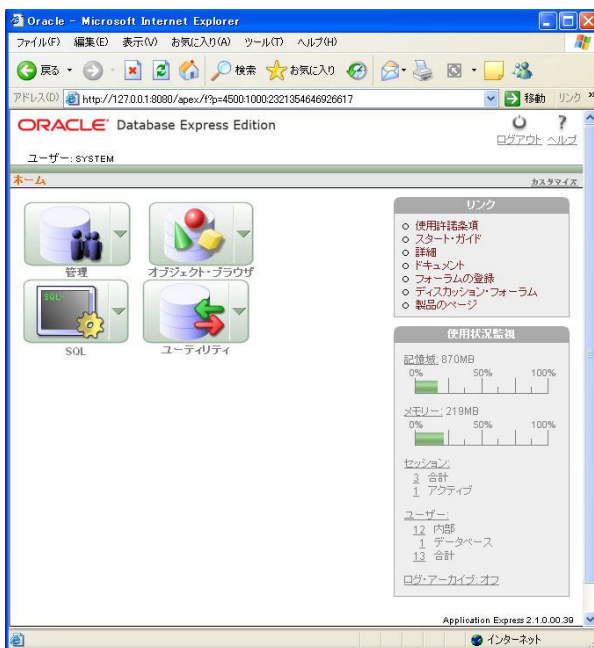


ユーザー名 : SYSTEM

パスワード : インストール時に設定したパスワード

## 10) データベースのホームページ表示

ログインするとデータベースのホームページが表示されます。データベースのインストールを確認してください。



## 4 Compiere インストール

### 1) Compiere 日本語版 J300\_A01 の展開

CD の Compiere\_J300\_A01.zip をインストールするドライブに展開します。このインストールガイドでは C ドライブを仮定しています。

例 C:¥Compiere2

注意 別のドライブやフォルダーにインストールした場合は、以後の「C:¥」をインストールしたフォルダーのパスに読み替えてください。

### 2) セットアップの実行

注意 Compiere は JBoss サーバーをバンドルしています。インストールする PC に JBoss がインストールされている場合は、セットアップ前に JBoss をアンインストールしてください。

「C:¥Compiere2¥RUN\_setup.bat」を実行します。

Javaホーム	D:\jdk1.5.0_14	Java VM	sun
Compiereホーム	D:\Compiere2	KeyStore Password	*****
アプリケーション・サーバ	your-408j29dulv	Server Type	jboss
Deployment	D:\Compiere2\jboss\server\co	JNPポート	1099
ウェブポート	80	SSL	443
データベース・サーバ名	your-408j29dulv	データベース	oracleXE
データベース名 (SID)	xe	TNS	xe
データベースポート	1521	システムパスワード	*****
データベースユーザー名	compiere	データベースパスワード	*****
メール・サーバ	your-408j29dulv	メール	
メールユーザー		メールパスワード	
Select Components	Compiere Core 3.0.0 (Requires accepting License) (1/1)		

この画面では、インストールドライブが D: となっていますが、C: と読み替えてください。

次の下線の項目を設定します。自動表示される項目は、特に変更する必要はありません。

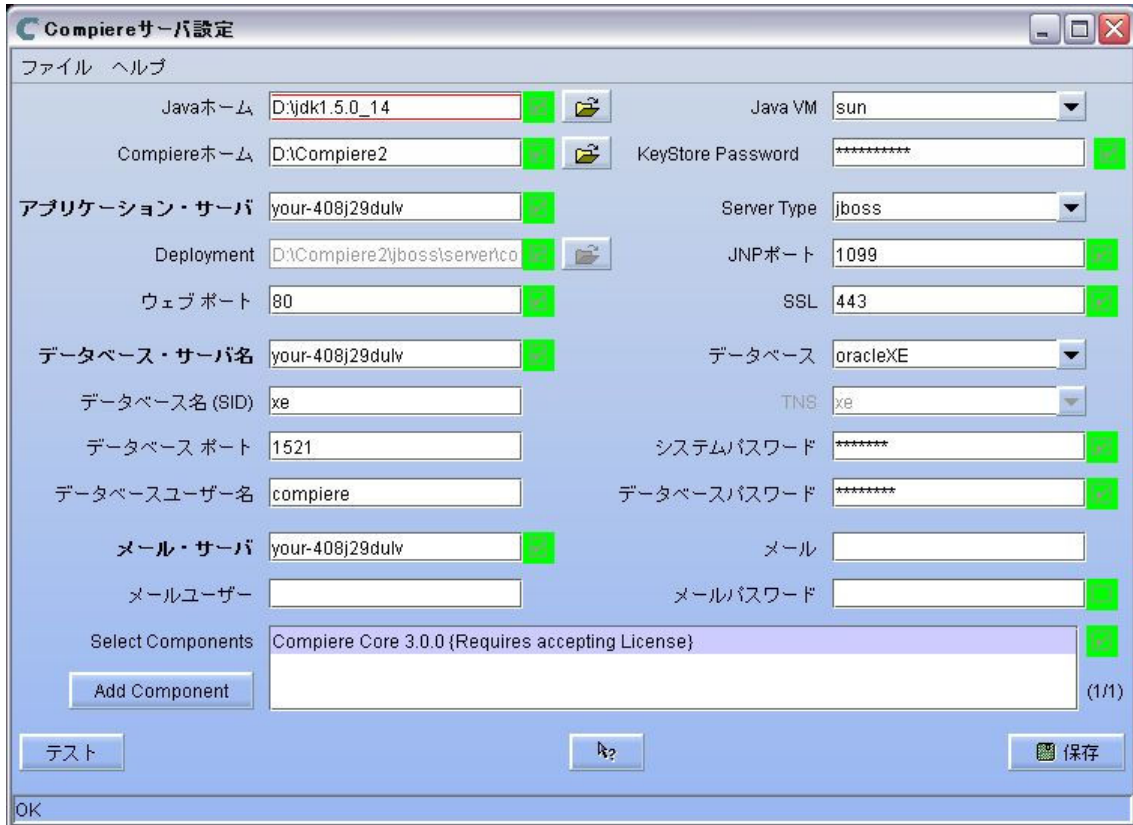
- Java のホーム : C:\jdk1.5.0\_XX (自動表示)
- Java VM : sun (自動表示)
- Compiere のホーム : C:\Compiere2 (自動表示)
  
- KeyStore Password : \*\*\*\*\* (デフォルト値 : compiere、変更可能)
- アプリケーション・サーバー : myPC (インストール PC 名にする)
- Server Type : jboss (自動表示)
- Deployment : 無効化 (自動表示)
- JNP ポート : 1099 (自動表示)
- ウェブポート : 80 (自動表示、変更可能)
- SSL : 443 (自動表示、変更可能)
- データベース・サーバー名 : myPC (インストール PC 名にする)
- データベース : oracle (選択する)
- データベース名 (SID) : xe (入力する)
- TNS : xe (入力する)
- データベース・ポート : 1521 (自動表示)
- システムパスワード : \*\*\*\*\* (Oracle xe のインストール時に設定した SYSTEM パスワードを入力)
  
- データベースユーザー名 : compiere (自動表示、変更可能)
- データベース・パスワード : \*\*\*\*\* (自動表示、デフォルト値 : compiere、変更可能)
  
- メール・サーバー : (自動表示)
- メール : (自動表示、省略可)
- メールユーザー : (自動表示、省略可)
- メールパスワード : (省略可)

各項目を入力終了後、「テスト」ボタンをクリックすると入力項目を検査して次の 2 が表示されます。全項目テストをパスした後、「保存」ボタンをクリックして設定を保存します。

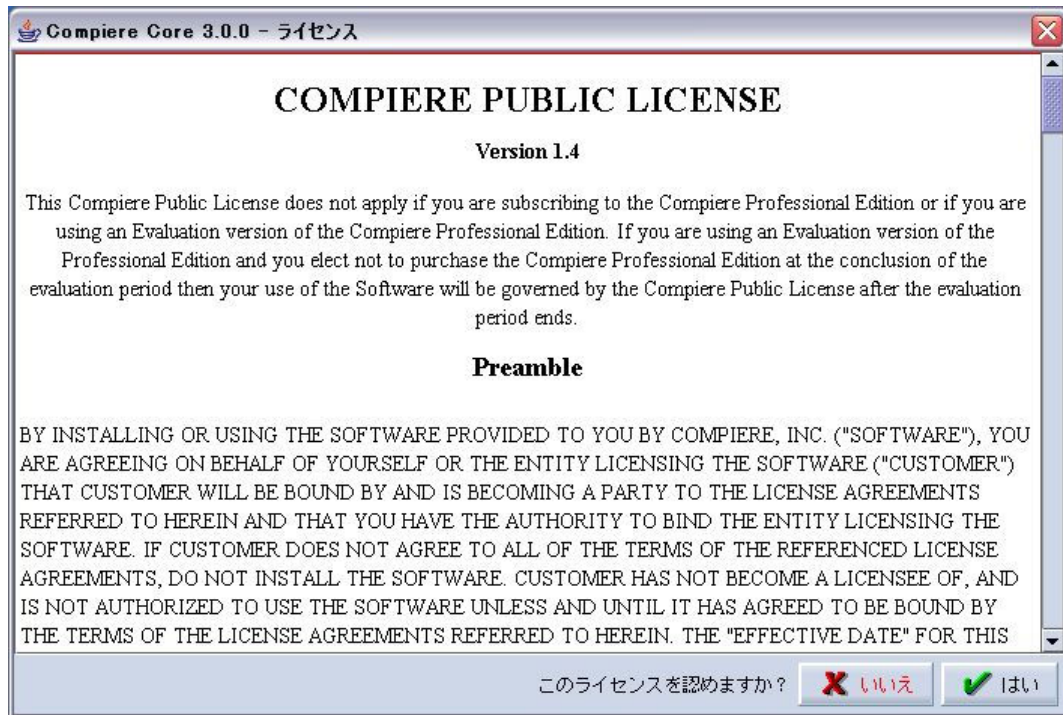
インストール PC で 80 ポートか 443 ポートがすでに使われている場合、「テスト」ボタンを押した時に Web ポートエラーになります。  
この時、自分で Web ポートと SSL ポートを別のポート番号に指定してください。

例 ウェブポート : 8080、 SSL : 8443

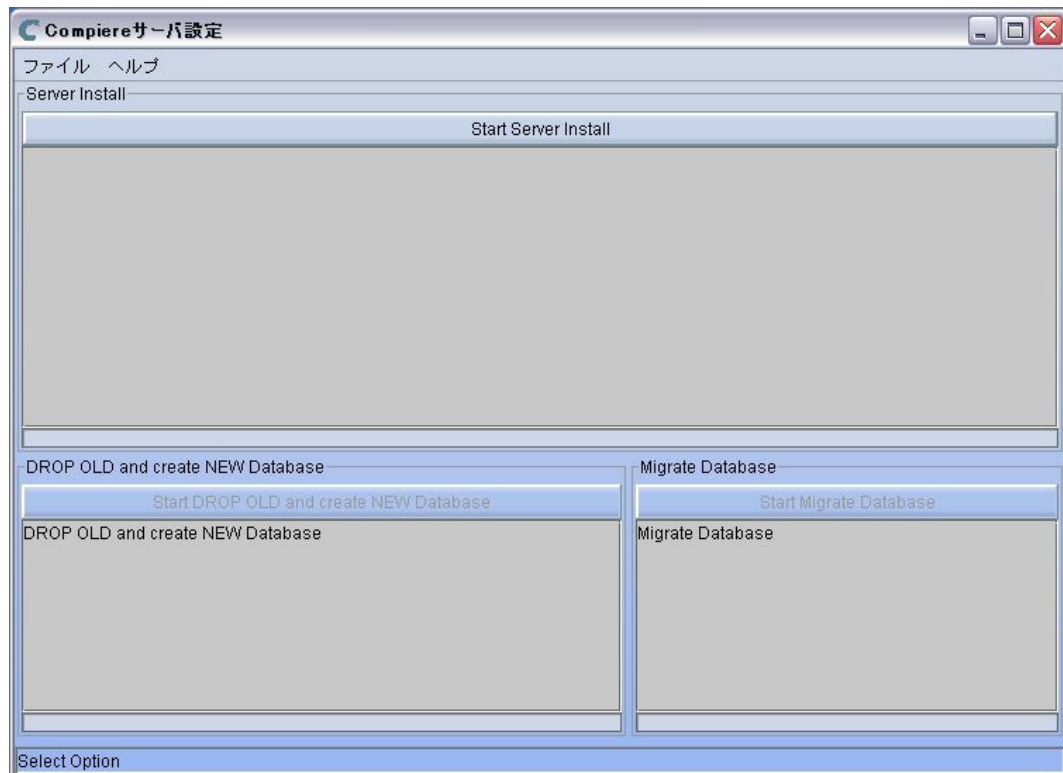
「保存」ボタンを押した後、初めての実行であれば、つぎのような Key Store Dialog 画面が表示されます。Key Store のための必要な情報を登録して、「OK」ボタンをクリックします。



Key Sotre が作成終了後、ライセンス承認画面が表示されます。



「はい」ボタンをクリックすると、デフォルトのセキュリティキー生成通知画面の表示するので、OK で進めると次の画面が表示されます。



“Start Server Install” をクリックして、インストールを開始してください。

## 5 Compiere モデルデータベースのインストール

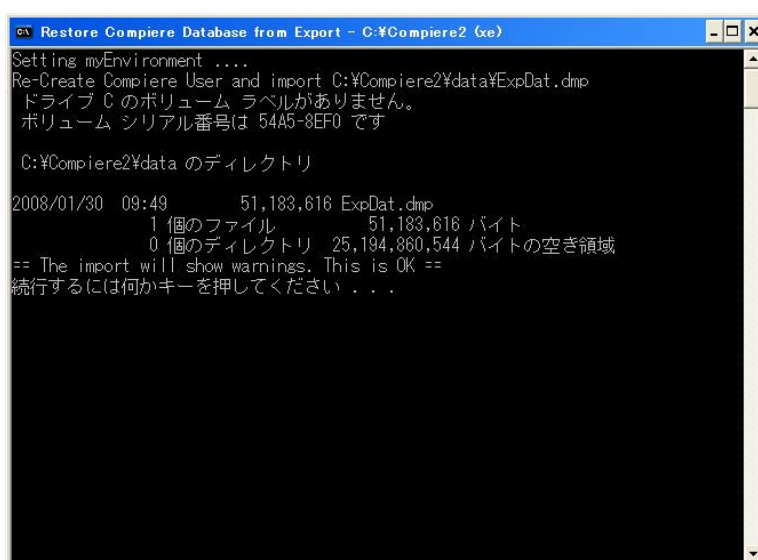
### 1) ExpDat.dmp のコピー

CD の Compiere300\_J¥Binary にある ExpDat.dmp を C:¥Compiere2¥data の下にコピーします。

### 2) データベースのリストア実行

「C:¥Compiere2¥utils¥RUN\_DBRestore.bat」を実行すると DOS プロンプト・ウィンドウが開かれ、データベースのユーザー作成及びデータのリストアステップが実行されます。

※ 注意：このスクリプトを 2 回以上実行すると、既存の DB ユーザー compiere を削除して再度作成しなおすため、時間がかかる場合があります。

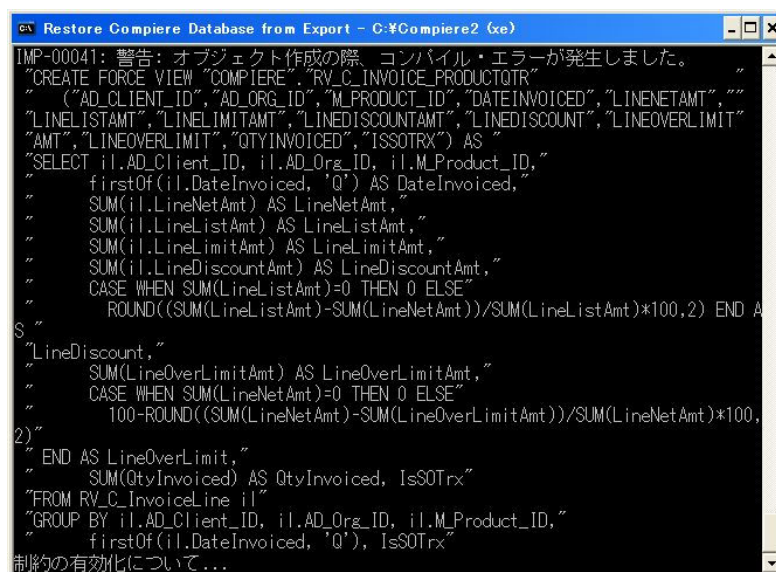


```
Restore Compiere Database from Export - C:¥Compiere2 (ce)
Setting myEnvironment ...
Re-Create Compiere User and import C:¥Compiere2¥data¥ExpDat.dmp
ドライブ C のボリューム ラベルがありません。
ボリューム シリアル番号は 54A5-8EF0 です

C:¥Compiere2¥data のディレクトリ

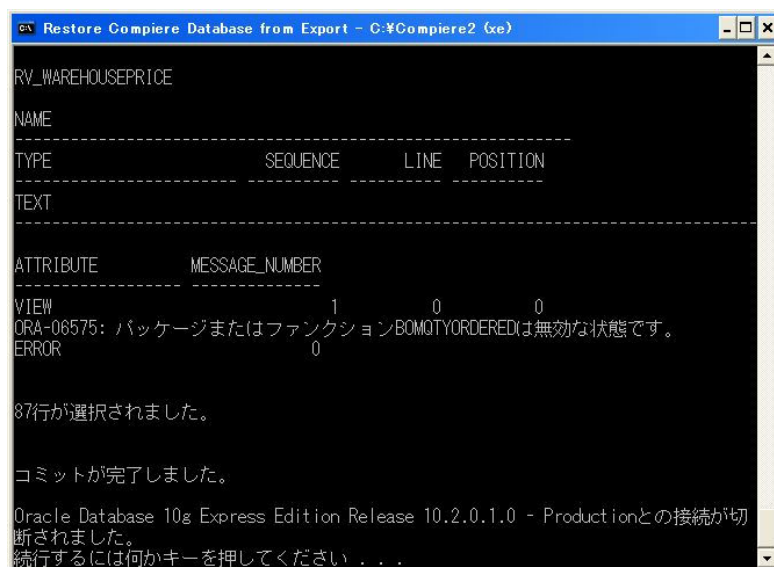
2008/01/30 09:49          51,183,616 ExpDat.dmp
                1 個のファイル      51,183,616 バイト
                0 個のディレクトリ 25,194,860,544 バイトの空き領域
== The import will show warnings. This is OK ==
続行するには何かキーを押してください . . .
```

次のように実行途中で警告やエラーが表示されますが問題ありませんので、そのまま続けます。データベースのリストアは時間がかかります。



```
Restore Compiere Database from Export - C:¥Compiere2 (ce)
IMP-00041: 警告: オブジェクト作成の際、コンパイル・エラーが発生しました。
"CREATE FORCE VIEW "COMPIERE"."RV_C_INVOICE_PRODUCTQTR"
" ("AD_CLIENT_ID", "AD_ORG_ID", "M_PRODUCT_ID", "DATEINVOICED", "LINENETAMT", "
" "LINELISTAMT", "LINELIMITAMT", "LINEDISCOUNTAMT", "LINEDISCOUNT", "LINEOVERLIMIT
" "AMT", "LINEOVERLIMIT", "QTYINVOICED", "ISSOTRX") AS
"SELECT il.AD_Client_ID, il.AD_Org_ID, il.M_Product_ID,
" firstOf(il.DateInvoiced, 'Q') AS DateInvoiced,
" SUM(il.LineNetAmt) AS LineNetAmt,
" SUM(il.LineListAmt) AS LineListAmt,
" SUM(il.LineLimitAmt) AS LineLimitAmt,
" SUM(il.LineDiscountAmt) AS LineDiscountAmt,
" CASE WHEN SUM(LineListAmt)=0 THEN 0 ELSE
" ROUND((SUM(LineListAmt)-SUM(LineNetAmt))/SUM(LineListAmt)*100,2) END AS
S
" LineDiscount,
" SUM(LineOverLimitAmt) AS LineOverLimitAmt,
" CASE WHEN SUM(LineNetAmt)=0 THEN 0 ELSE
" 100-ROUND((SUM(LineNetAmt)-SUM(LineOverLimitAmt))/SUM(LineNetAmt)*100,
2)"
" END AS LineOverLimit,
" SUM(QtyInvoiced) AS QtyInvoiced, IsSOTrx"
"FROM RV_C_InvoiceLine il"
"GROUP BY il.AD_Client_ID, il.AD_Org_ID, il.M_Product_ID,
" firstOf(il.DateInvoiced, 'Q'), IsSOTrx"
制約の有効化について...
```

完了した後は次の画面になります。



```
Restore Compiere Database from Export - C:\Compiere2 (xe)
RV_WAREHOUSEPRICE
NAME
-----
TYPE                SEQUENCE    LINE    POSITION
-----
TEXT
-----
ATTRIBUTE           MESSAGE_NUMBER
-----
VIEW                1            0            0
ORA-06575: パッケージまたはファンクションBOMQTYORDEREDは無効な状態です。
ERROR                0

87行が選択されました。

コミットが完了しました。

Oracle Database 10g Express Edition Release 10.2.0.1.0 - Productionとの接続が切
断されました。
続行するには何かキーを押してください...
```

キーを押して終了します。

## 6 アプリケーション・サーバーの起動

### 1) アプリケーション・サーバーの起動

「C:\Compiere2\utils\RUN\_Server2.bat」を実行して、JBoss ベースのアプリケーション・サーバーを起動することができます。

### 3) アプリケーション・サーバー停止

アプリケーション・サーバーを停止するには  
「C:\Compiere2\utils\RUN\_Server2Stop.bat」を実行します。

## 7 ログイン

「C:\¥Compiere2¥RUN\_Compiere2.bat」を実行して、Compiere のクライアントを起動します。

デフォルトのログインユーザーには、次の4つがあります。

ユーザー : SuperUser	パスワード : System
ユーザー : System	パスワード : System
ユーザー : GardenUser	パスワード : GardenUser
ユーザー : GardenAdmin	パスワード : GardenAdmin



ここからシステムにログインして作業ができる状態となります。